

No. 958

柴田王座を失う

—世界フェザー級タイトルマッチ—

チャンピオン柴田のタイトル防衛なるか、挑戦者クレメンテ・サンチェスが王座を奪うか。
プロボクシング世界フェザー級タイトルマッチが5月19日、東京両国の大講堂で行なわれました。
スタートから、一発強打を秘める両者らしく、緊迫した展開となり、1ラウンドには柴田の左フックがヒット。
しかしサンチェスは闘志満々、チャンピオンにせまり3ラウンド、すばやいワンツウストレートを柴田にあびせ、あざやかにKO。柴田、強烈なカウンターパンチで一度は立ちあがったもののマットにくずれカウントアウト。
3度目のタイトル防衛はなりませんでした。

沖縄からの報告

遺族村

沖縄戦の激戦地であった沖縄南部・摩文仁岳一帯。おだやかな東海岸から少しばかり入った小高い丘に糸満市旧米須という小さな村がある。その村をとりまいて点在する慰靈塔の数々、『魂魄の塔』『健児の塔』『ひめゆりの塔』、米須は最激戦地であった。

全滅した家族の実態は27年たった今日まだ正確にはわかっていない。そのうえ村人の9割までが遺族であるという。この村では遺族会の集会が多い。5月15日『沖縄復帰の日』にまた一つの集会が開かれた。

復帰にともなって新役員の選出、会計報告が主な内容である。しかし1ドル305円の交換レートで遺族年金は実質上ダウン、物価値上がりなどで会費も上げざるを得ない、と暗い話題が多かった。

※私は先の大戦で家族9人のうち6人を失った。

※自分は当時内地にいたので助かったが、ここにいた父や母、妻や子、家族9人は全員殺された。家族が殺された壕へ行って見た。目の前が真暗になり、何も見えなくなった。

※自分の墓に入つておれば安心だからと思い、親せき一同全部が入つていた。そこへ友軍が来て追い出されてしまった。食料も皆取られてしまった。

※報酬程おろしいものはない。貧しくても、苦しくても生きていられさえすればいい。戦争はもういやだ。

※子供がいれば孫もたくさんいて楽しいのだけれど、今こうして一人暮らしていると、とても寂しい……

老人たちの重い口から出た言葉には、すべて忘れようとしても忘られない怒りや悲しみが含まれていた。家族9名を殺された山城老人（81歳）は慰靈塔の前ではしゃぎ回る観光客を横目で見ながら自分で作ったという『忠靈の塔』に行った。深々と首をたれて祈る老人の頭上を友軍機（自衛隊機）が爆音を残して飛んでいた。